



第5回 宗像国際環境100人会議

The 5th MUNAKATA Eco-100 International Forum

海の鎮守の森プロジェクト

水と命の循環 ー自然への感謝と畏怖

宗像国際環境100人会議は、平成26年（2014年）に各分野のリーダーや学識経験者たちにより海の再生を目的に設立され、“海の鎮守の森”構想を実践しながら、近年の急激な海の変化への提言や情報を国内外に発信しています。

●平成30年8月24日（金）～26日（日）

●宗像ロイヤルホテル 宗像市田野1303

【主催】宗像国際環境会議実行委員会【共催】宗像市【後援】環境省、福岡県、福津市【宗像国際環境会議実行委員会構成団体】宗像観光協会、宗像漁業協同組合、宗像大社、筑前七浦の会、宗像環境団体連絡協議会、一般社団法人九州のムラ、特定非営利活動法人改革プロジェクト、宗像フェス事務局、株式会社ジェイワーク、キリンビール株式会社、シャボン玉石けん株式会社、新日鐵住金株式会社、新日鐵住金エンジニアリング、日本航空株式会社、三菱商事株式会社、九州大学大学院工学研究院、宗像市（順不同）



第5回宗像国際環境100人会議日程（案）

第1日8月24日（金）	第2日8月25日（土）	第3日8月26日（日）
	09：00 バス移動 09：30 宗像大社参拝 施設見学 10：30 分科会 第1分科会 宗像大社儀式殿 ー海と地球環境問題 第2分科会 宗像大社勅使館 ー環境と経済の融合 12：00 昼食／弁当 清明殿	09：00 宗像国際環境100人会議 分科会のまとめ 世界遺産登録1周年記念公開講演会 なぜ、持続が可能な Why? Sustainable 09：20 映像で観る世界の地球環境 海洋アドベンチャー・タラ号の大冒険 太平洋横断 サンゴの危機を救え！ 09：50 座談会Ⅰー水と命の循環 11：10 休憩 11：20 座談会Ⅱー自然への感謝と畏怖 12：40 宗像宣言採択 12：50 終了
12：30 受付 13：00 開会宣言／来賓挨拶 13：10 開催趣旨ー過去の取り組み 13：30 映像で観る世界の環境 RKB 北部豪雨と温暖化 ※KBC TNC FBS他 コーヒーブレイク 14：30 基調提言 ー持続可能な社会への提言 15：40 宗像国際環境100人会議 17：40 終了 18：00 バス移動	13：00 分科会 14：30 バス移動 15：00 フィールドワーク 竹漁礁 浜辺漂着ゴミ拾い 17：30 バス移動 18：00 ホテル着夕食は各自にて	
18：30 交流会 オテルグレージュ	18：30 メンバー交流会 勅使館	

10：30 宗像国際環境100人会議
学生による海のセッション
（宗像漁業組合）



登壇者プロフィール

第1日8月24日(金)

基調提言「持続可能な社会への提言」

澁澤 寿一 | NPO法人樹木環境ネットワーク協会 専務理事



日本の農学者、東京農業大学大学院修了の農学博士。NPO 法人樹木環境ネットワーク協会（東京都新宿区）専務理事。国際協力事業団専門家としてパラグアイ国立農業試験場に派遣される。帰国後は長崎オランダ村、ハウステンボスの企画、建設、運営に携わる。澁沢事務所代表として、日本・アジアの環境や地域、人づくり活動を実践してきた。明治初期に第一国立銀行を経営するなど、財界の大御所として活躍し、社会事業や教育にも尽力した澁沢栄一の曾孫であり、小説家の澁沢華子とは姑母に当たる。

宗像国際環境100人会議〔助言者〕

中井徳太郎 | 環境省 総合環境政策統括官



東京大学法学部卒業後、大蔵省入省。主計局主査（農林水産係）などを経験し、富山県に転出。生活環境部長などを勤め、日本海学の確立・普及に携わる。2010年財務省主計官（農林水産担当）。東日本大震災後の2011年7月の異動で環境省に。会計課長、秘書課長、大臣官房審議官（総合環境政策局担当、統括担当）、廃棄物・リサイクル対策部長を経て現職に至る。

葛城 奈海 | やおよろずの森 代表〔進行〕



ジャーナリスト、環境運動家。自身が立ち上げた「やおよろずの森」という民間団体では、石垣島、小浜島、西表島、対馬の海岸の漂着ごみを清掃するビーチクリーン活動等を行い、日本の自然・生物の生態系を守る活動に取り組んでいる。

第2日8月25日(土)

第1分科会「海と地球環境問題」

八幡 暁 | カヤック冒険家



海とともに暮らす人々は、どのように生きているのか」をテーマに、2002年にオーストラリアから日本までの多島海域を舞台に人力航海の冒険をスタート。世界初となる航海記録を複数持つ。

エバレット・ケネディ・ブラウン | 湿板写真家



国際フォトジャーナリス、文筆家、元EPA 通信社日本支局長、日本文化研究者、ジャーナリストとして日本中を旅し、伝統風俗を学ぶ。2011年より、湿板写真を始め、湿板写真を通じて「時を超えた日本」の記録に取り組み、日本の古層（オールドレイヤー）を古典技法で映し出し続ける。主な被写体は、日本の伝統文化、工芸、匠、着物、風情ある場所。

清野 聡子 | 九州大学大学院准教授〔進行〕



沿岸・流域環境保全学、水生生物学、生体工学。特に、漁場の開発と保全の調整・合意形成、希少生物生息地の保全や再生、地域住民や市民の沿岸管理への参加、水関係の環境計画や法制度。地域の知恵や科学を活かした海洋保護区を研究。



登壇者プロフィール

第2分科会「環境と経済の融合」

筑紫みずえ | 株式会社グッドバンカー 代表取締役社長



パリ大学に学び、専業主婦の後、仏系企業を経て1988年に金融業界に転身。スイス系UBS信託銀行営業部次長の後、98年株式会社グッドバンカーを設立。99年日本初のSRI型金融商品で、環境問題の観点から積極的に評価できる企業にのみ投資する『エコファンド』を企画。6ヶ月で市場規模は2000億円に達し、一躍話題となり、金融商品初のグッドデザイン賞を受賞。2000年3月、UNEPの金融業界環境声明に日本企業として初めて署名。04年『ファミリー・フレンドリーファンド』グッドデザイン賞受賞。日本ユネスコ国内委員会委員、中央環境審議会委員等。

岩元美智彦 | 日本環境設計株式会社 代表取締役会長



1964年、鹿児島県生まれ。北九州市立大学卒業後、繊維商社に就職。営業マンとして勤務していた。1995年、容器包装リサイクル法の制定を機に繊維リサイクルに深く携わる。2007年1月、現代表取締役社長の高尾正樹とともに日本環境設計を設立。資源が循環する社会づくりを目指し、リサイクルの技術開発だけでなく、メーカーや小売店など多業種の企業とともにリサイクルの統一化に取り組む。2015年アシオカフェローに選出。

花堂 靖仁 | 早稲田大学知的資本研究会上級顧問〔進行〕



知的資産経営、知識化経済におけるIR、会計基準の国際的取組とコーポレート・ガバナンス、企業情報、ESG、化といった観点からコーポレート・コミュニケーションの展開方向を探っている。

第3日8月26日(日)

座談会 I 「水と命の循環」

浜崎陽一郎 | 株式会社Fusic 取締役副社長



1976年生まれ。生まれも育ちも大阪だが、大学生活から縁あって福岡へ。Fusicの20の信条でもある、「できる人になる」「できるだけではダメである」を体現すべく、持ち前の大阪人魂で社内外を問わず、円滑なコミュニケーションを生み出すことを大事にしている。

寺崎 正勝 | 株式会社九電ビジネスフロント 代表取締役社長



1959年生まれ、福岡市出身、西南学院大学商学部経営学科学卒。82年九州電力に入社、広報部副部長、事業開発部課長、経営企画部課長を経て、現任に至る。2004年アメリカ国務省International VisitorLeadership Programに招聘、参加

都築明寿香 | 都築育英学園理事長



青山学院大学法学部卒、東京大学大学院修士課程修了（学際情報学府国際情報学専攻実践情報学コース）都築国際育英財団理事長、元都築インターナショナル学園総長、都築育英学園理事長、日本経済大学 学長



登壇者プロフィール

第3日 8月26日 (日)

座談会 I 「水と命の循環」

鈴木 款 | 静岡大学創造科学技術大学院 環境サイエンス部門 特任教授



1972年静岡大学工学部工業科学科卒業、1977年名古屋大学理学研究科(理学博士) 1973年～1993年気象庁気象研究所地球化学研究部研究官・主任研究官、1993年～2007年静岡大学教授、2007年～2015年静岡大学創造科学技術大学院研究院長、主な受賞1979年日本海洋学会岡田賞1991年科学技術庁長官賞2010年海洋化学学術賞、2011年内閣総理大臣賞(海洋関係) 2013年国際サンゴ礁最優秀論文賞、著書:「海洋生物と炭素循環」(1997東大出版会)、「サンゴ礁学」(東海大出版会、2011) 論文182、学術著書7

小川 三夫 | 宮大工 鶴工舎創設者



1947年栃木県生れ。1966年、栃木県立氏家高等学校卒業直後に西岡常一棟梁の門を叩くが断られる。飯山の仏壇屋、日御崎神社、酒垂神社で修業をした後、1969年に西岡棟梁の内弟子となる。法輪寺三重塔、薬師寺金堂、同西塔の再建に副棟梁として活躍。1977年、鶴工舎を設立。以後、国土安穩寺、国泰寺をはじめ全国各地の寺院の修理、改築、再建、新築の設計・施工・模型製作にあたる。

義父 信夫 | 一般社団法人九州のムラ代表理事〔進行〕



宗像国際環境会議実行委員会事務局長 「九州のムラ」編集長として、地域に生きる人々の暮らしを中心に取材を重ね、ムラとマチを繋げる。また講演や地域づくりのアドバイザーなど、グリーン・ツーリズムやスローフード運動の啓発活動も積極的に行っている。

川勝 平太 | 静岡県知事



日本の経済学者(比較経済史)、政治家。学位はD.Phil.(オックスフォード大学・1985年)。静岡県知事(第53-55代)、公益財団法人世界緑茶協会理事長(第3代)、国際日本文化研究センター客員教授、麗澤大学比較文明文化研究センター客員教授、静岡文化芸術大学名誉教授。早稲田大学政治経済学部教授、国際日本文化研究センター副所長、財団法人総合研究開発機構理事、静岡文化芸術大学学長(第2代)、学校法人静岡文化芸術大学理事長(第2代)などを歴任した。

座談会 II 「自然への感謝と畏怖」

第14代 中里太郎右衛門



昭和32年、13代中里太郎右衛門の長男として生まれる。51年に武蔵野美術大学造形学部彫刻学科を卒業。56年、同大学院を修了。その後、多治見陶磁器意匠研究所、国立名古屋工業技術試験所で釉薬の研究を続ける。58年に中里太郎右衛門工房で作陶を始め、翌年、第16回日展で青唐津手付壺「貝緑」で初入選を果たす。以後、各種展覧会で入選、入賞を重ね、平成2年、「焼締壺90」が日展特選に、第40回日展で「焼締壺」が県知事賞に選ばれた。日展会友、日工会評議員、知新会会員、東南アジア古陶磁会会員などを務める。

菺津 敬之 | 宗像大社宮司〔進行〕



1962年福岡市生まれ。昭和60年皇學館を卒業後、同年熱田神宮に奉職。同62年神社本庁に奉職。平成8年主事、総務課長、情報管理課長、教学課長、国際課長、同21年参事、財務部長、広報部長を経て、平成24年4月に宗像大社に奉職。同25年権宮司、同27年6月宮司。宗像国際環境会議実行委員。



海洋アドベンチャー・タラ号の大冒険太平洋横断 サンゴの危機を救え!

2003年以来、10年以上世界中で地球温暖化の海への影響を調査してきた帆船タラ号の活動を映像で紹介。海に忍び寄る大きな危機を警告します。



— NHK 制作 —

フランスとの国際共同制作で美しい帆船タラ号の太平洋3万キロを超える調査に1年間密着!

▽タヒチ、沖縄、サンゴ“白化”の大ピンチ、乗り越える秘策とは? ▽温暖化で東京湾にもサンゴが?

▽高知・日本の魚が激変? ▽伊豆の海に忍び寄る危機・海洋酸性化で何が…▽タラ号と横浜・喜界島

の子どもたち ▽海の豊かさを守るために…

第37回 全国豊かな海づくり大会
福岡大会協賛行事
第4回 宗像国際環境100人会議
The 4th MUNAKATA Eco-100 International Forum
海の鎮守の森プロジェクト——
大いなる海 生命の循環



ネットからの申し込み

宗像国際環境100人会議

<https://munakata-eco100.net/entry>

宗像国際環境 100 人会議 2018 FAX 参加申込書
0940-37-1242 (実行委員会事務局 宗像市秘書政策課内)

■参加申込みフォーム

氏名	姓	名	ふりがな	せい	めい
所属			役職		
E-mail			当日連絡先 電話番号		
住所	〒	—			
<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場					
備考					

■参加希望プログラム (参加を希望するプログラムにチェックを入れてください。)

日付	プログラム	☑	
【第1日】 24日(金)	会議(参加費 500 円、学生無料)	<input type="checkbox"/>	
	交流会(参加費 6,500 円、学生 3,000 円)	<input type="checkbox"/>	
【第2日】 25日(土)	会議(参加費: 500 円、学生無料)	分科会1「海と地球環境問題」	<input type="checkbox"/>
		分科会2「環境と経済の融合」	<input type="checkbox"/>
		分科会3「学生プロジェクト」※学生のみ	—
	昼食(弁当代 1,000 円)	<input type="checkbox"/>	
	フィールドワーク	さつき松原 漂着ゴミ清掃	<input type="checkbox"/>
【第3日】 26日(日)	会議(参加費: 500 円、学生無料)	鐘崎 竹魚礁づくり	<input type="checkbox"/>
		西暦 年 月 日生まれ	



MUNAKATA Eco - 100 International Symposium 2018

【問合せ先】宗像国際環境会議実行委員会 (URL) <http://munakata-eco100.net/>
(メール) info@munakata-eco100.net (FAX) 0940-37-1242